

「地図豆」の地図を広げて街歩き

37-1 軍都赤羽1番街商店街へ (5.5km)



今は珍しい、スターハウス

本蓮沼駅から湧水のある赤羽自然観察公園、稲付城跡（静勝寺）を経て、かつて軍都であったことを偲ばせる赤羽1番街商店街へと向かう。

【道順】

都営三田線本蓮沼駅から→国立西が丘サッカー場→東京陸軍兵器補給廠専用線跡1→赤羽自然観察公園（湧水）→稲付城跡（静勝寺）→スターハウス→ミタマ古墳→東京陸軍兵器補給廠専用線跡2→赤羽1番街商店街→JR赤羽駅へ

【街歩き解説】

国立西が丘サッカー場・国立スポーツ科学センター

辺りは、かつては東京兵器補給廠だったところ。

サッカー専用スタジアムである「味の素フィールド西が丘」と、スポーツ科学・医学・情報など先端的な研究と、充実した最新施設、器具・機材を活用して、国際競技力向上のための支援をするスポーツ科学センターがある。



赤羽自然観察公園の湧水からの流れ

赤羽自然観察公園

かつては自衛隊十条駐屯地として使用されていた谷状の地形には湧水があることから、「自然とのふれあい」をテーマにした公園として整備されている。

兵器補給廠専用線跡・ミタマ古墳

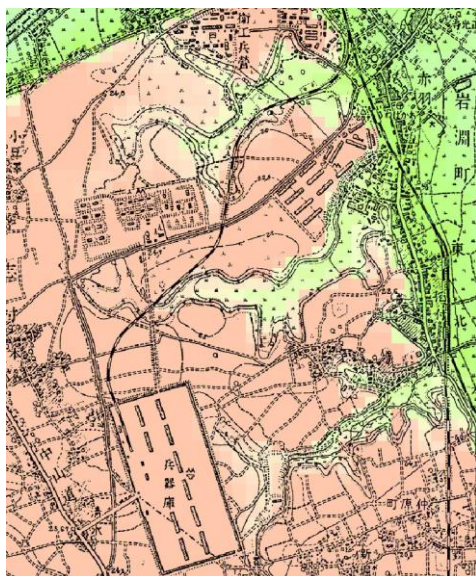
赤羽には、明治初期に赤羽火薬庫があり、明治20年代以降には第一師団工兵第一大隊、近衛師団工兵大隊、王子火薬製造所、陸軍兵器支蔵造兵廠、陸軍火工廠稲付射場、十条兵器製造所などが都心から移転するなどして軍都の様相を示し始めた。このように軍需工場などの施設が多くあったので、専用引込線跡も発達しその跡も多く残っている。

ここは、兵器・弾薬・機材などの補給、要塞の備砲工事を担当した陸軍兵器補給廠専用線跡。線路跡近くには、赤羽自然観察公園そして湧水がある。赤羽台団地51号棟内側にはミタマ古墳もある。



兵器補給廠専用線跡・ミタマ古墳

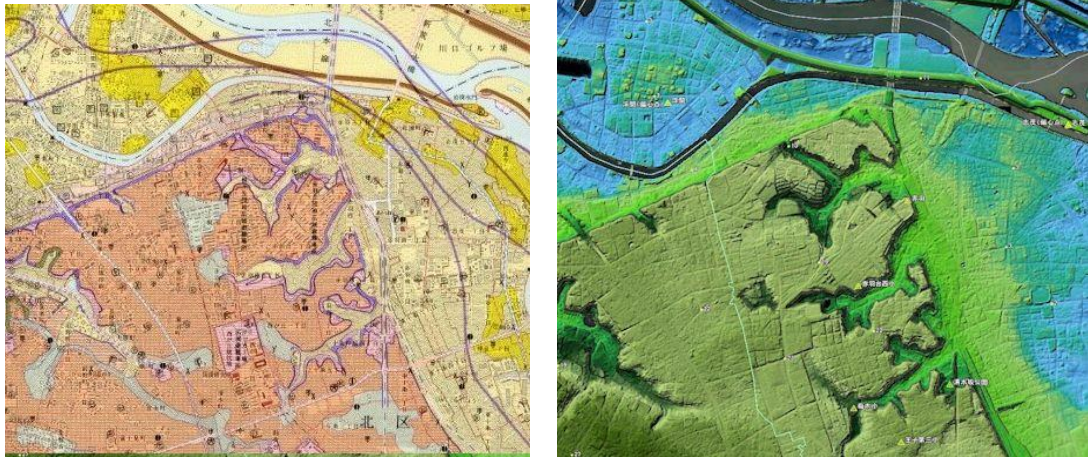
台地の土地利用



明治 42 年測図「赤羽」・S20 年部分修正「赤羽」



デジタル標高地形図



土地条件図・デジタル標高地形図

台地の上は、かつて軍用施設で占められていて、戦後住宅団地などになった。

両図からは、武蔵野台地（土地条件図の橙色部分）が特徴的にせり出しているのが明らかだ。鋭利な刃物で切り取ったようになった台地の縁は、縄文海進期に沿岸流によって浸食された海蝕崖である。土地条件図で、橙色に着色された台地部分は、上総層群、東京層などと呼ばれる固化した泥・砂・礫からなる海成層の上に関東ローム層が堆積した強い地盤である。一方の荒川周辺の黄色系統部分は、荒川の沖積低地で地盤はほぼ軟弱である。しかし、その中間の薄茶色に着色された部分の詳細は明らかでないが、デジタル標高地形図を同じ地域を参照すると、台地縁から黄緑色になった高まりが見つけられる。これは台

地の崖が波によってくずれて後退し、その前面で岩盤が露出した波食台の一部であるから、ここも地盤は比較的しっかりしている。

ところが、台地に食い込むように発達する小さな谷の辺りは、おなじような色で表現されていても（土地条件図を細かく読むと異なる色）、かつて田んぼか湿地であったところで、軟弱な地盤である。

スターハウス

赤羽台団地 51 号棟内側にあるミタマ古墳を見てから、その形が、上空から見ると Y 字型、星状になっていることから、スターハウスと呼ばれたアパートを訪ねる。Y 字形になったアパートは、今では珍しいつくり。昭和 30 年代に整備されたスターハウス、今では歴史的建築物として保存されようとしている。

稲付城址（静勝寺）

鎌倉街道（岩槻街道）だったという台地の縁を通る道から階段を上った先にある静勝寺は、太田道灌が築いた稲付城址に、永正元年（1504 年）道灌の禅の師匠雲綱が死んだ名将の菩提を弔うために草庵を結び名付けたのが寺の起源であるという。

稲付城址のある静勝寺から四方を眺めれば、誰の眼にも要衝であったことがわかる。また武蔵野台地が東へとせり出した場所でもある。城址へ上る南坂あたりは、その傾斜と曲がりがいい雰囲気醸し出している。



稲付城址（静勝寺）

赤羽 1 番街商店街

赤羽一番街商店街は戦前から商業活動があった地で、戦後いち早く復興を目的として組織されたのだという。本町通りと並行して北へ抜ける通りと、その東のシルクロードというアーケードがメインで、川魚・うなぎの店、個人経営の小さな飲み屋などが軒を連ねるレトロな感じが楽しめる商店街である。

ルートマップ



+* * *+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +* * *+